

長期休眠型種子の休眠打破についての調査 (平成29年度～31年度)

1 調査目的

緑化木を生産する場合、実生又は挿し木による繁殖が一般的に行われていますが、種子は樹種によって様々な発芽のタイプがあります。

多くの種子は、成熟の「翌春発芽するもの」や「翌春と翌翌春に発芽するもの」に分類されますが、中には成熟の2年目ないし3年目の春にはじめて発芽するものなど、実生繁殖を行う上で効率の悪い樹種もあります。

そこで、これら長期休眠型種子について、休眠期間の短縮による経営の効率化に資するため、休眠打破の方法を試行して効果的な処置方法を見出すことを目的として調査を行っています。

2 調査方法

(1) 樹種の選定

山中教授（東京大学農学部）による調査で発芽型がE（多年型）又はF（長期休眠型）に分類されている樹種で、実生繁殖が一般的に行われており、種子の確保が可能な次の樹種を調査対象として実施しています。

E（多年型）：成熟の翌年から4年頃までの春に発芽するもの
マンサク、マユミ

F（長期休眠型）：成熟の2年ないし3年目の春にはじめて発芽するもの
ヤマコウバシ、ソヨゴ、クロガネモチなど

(2) 休眠打破のための処置方法

図解「植木のふやし方」に紹介されている次の方法で処置してから播種し、無処置の対照区と発芽状況を比較します。

ア 低温浸漬法：水温の低い流水か氷水に1～5日間浸す。

イ 低温湿層処理法：適当な水分と酸素を与えて数日ないし数十日間低温で貯蔵する。

ウ 変温法：2つの異なった温度域に1～2カ月間ずつ置く。

エ 温熱湯処理法：熱湯に数秒ないし数分間、あるいは温湯に数日浸ける。

※他に堅果を対象に傷付け法も紹介されているので、適した種子があれば行う。